

特42

873

上



あまの
あまの
あまの



長谷堂様

永享四年九月八日將軍義教公駿河の府中へ着御ゆき
 御成を感懐ありし由と怪しく崇敬する人のかこむけり
 理あり將軍よのまがら月一かの山を惟後トす富士の峯
 の雲乃りてやうしをめぐらせし廿日御船ふめされし之徳乃
 松原へあらしせ給ひ廿一日不還御あまの府中を立せし
 御供の大名衆の宿野小風呂湯殿
 の用志由給ひ廿荷舟為美物以下の雜事兩傘なる三十本





三日月の法師の幸へて
 昔の法師の幸へて
 松物法師の幸へて
 法師の幸へて



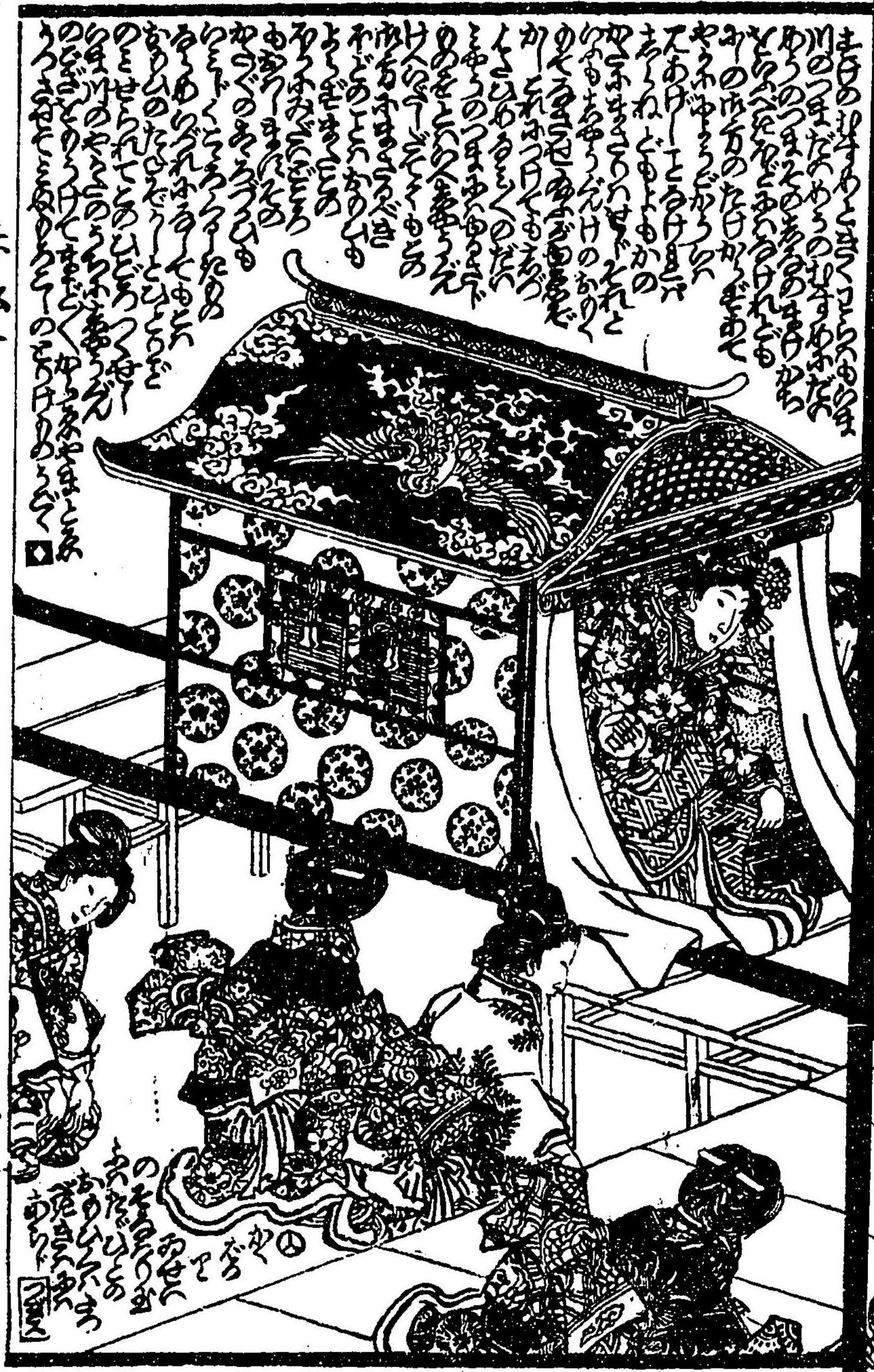
江戸浦
 漁夫の娘
 甘藻屑

あん ともくあふろくたせらふん
 おのうとせらふん
 名のおんこせらふん
 ありしとせらふん
 せらふん
 ちてんや

井戸の口は、水が湧き出るところで、
 昔は、井戸を掘るには、
 多くの労力が必要で、
 井戸の深さは、
 数丈から十丈以上あり、
 井戸の口には、
 蓋をかけることが、
 必要で、
 井戸の蓋は、
 石や土で、
 作られることが、
 多い。

井戸の水は、
 清く、
 涼しく、
 飲むことが、
 できる。

井戸の水は、
 飲むだけでなく、
 洗濯や、
 灌漑にも、
 使われる。



井戸の水は、
 飲むだけでなく、
 洗濯や、
 灌漑にも、
 使われる。

井戸の水は、
 飲むだけでなく、
 洗濯や、
 灌漑にも、
 使われる。



あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの



二

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

Vertical text columns at the top of the right page, likely serving as a title or introductory text for the scene below.



Vertical text columns at the bottom of the right page, likely providing commentary or dialogue related to the illustration.



Vertical text columns at the top of the left page, likely serving as a title or introductory text for the scene below.

Vertical text columns at the bottom of the left page, likely providing commentary or dialogue related to the illustration.

歌川國麿画 長谷堂壽梓

此の世に於ては、
 人の心は、
 雲の如く、
 水の流れの如く、
 常に変りて居るものなり。
 故に、
 人の心を知るは、
 人の心を知る人の心を知るに
 依るなり。

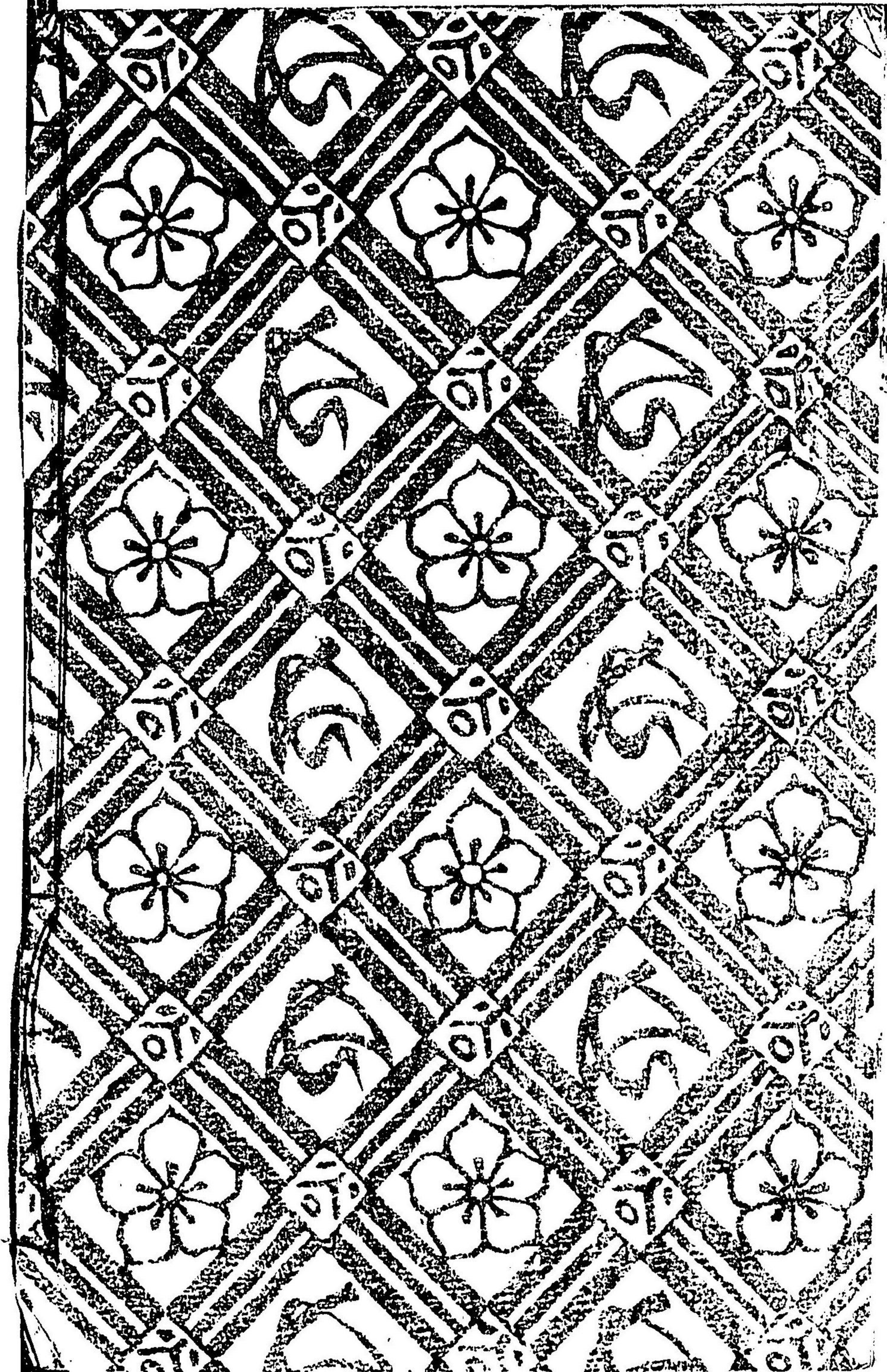


清書金川

| | | | | | |
|------------|----------|-----------|-----------|------------|-------------------|
| 新撰 郵便用文書 全 | 大日本國盡シ 全 | 四ツ車一代記 二冊 | 敵討曾我物語 二冊 | 賤ヶ嶽 銘々傳 二冊 | 郵便端書用文章 全 |
| えらたき一本志多々 | いろはかるこ品々 | 紙細工懐中將基一組 | に一羨多るの品々 | 辻占るの品々 | 金札向 塩包 志あく 手拭包 |

地本錦繪版元 念 長谷川忠兵衛

東京神田鍛冶町八番地





特42

873

092672-001-2

特42-873

三ツ葵赤松源氏

初編上下, 2編下

歌川 国麿/画

M18

DBP-2416

